

第七章

お囃子

第一節 福野夜高曳山行事の音空間

福野夜高曳山行事では、行燈を先導する勇壮な夜高太鼓、行燈練り廻しに欠かせない夜高節や拍子木の音、そして曳山や庵屋台とともに奏される庵唄といった音の世界が、行事の進行に伴い、様々な様相で表出される。祭りの三日間、街は祝祭の多様な音の時空間として彩られる。

これらは、五月一日の宵祭り及び二日の例祭における大行燈練り廻しを核とした華麗で動的な音空間と、続く三日に挙行される神輿渡御や曳山巡行、庵屋台に伴う優美で厳かな楽の模様は大別される。前者は五月二日夜の大行燈のすれ違いに伴う「引き合い（けんか）」を頂点とするエネルギーの中で、行燈を曳き回す若衆の声や拍子木の音、伴う夜高節、夜高太鼓の高揚感、後者は三味線や笛太鼓にのって歌われる庵唄や流れ聞こえるお囃子、神輿渡御に伴い奏される笛・太鼓、町内を巡る曳山の軋み音の情緒が特徴的である。

まず、夜高曳山行事の音空間について、令和四年（二〇二二）及び令和五年の事例を中心に、その全体像を時系列に沿って書き記す。

第一項 五月一日（宵祭り）

福野神明社での安全祈願祭、シャンシャンの練習（写真1）、献灯式、四つ角での裁許会などの行事が粛々と行われた後の夕刻、各町で行燈の出陣式が行われ、行燈練り廻しが始まる。重量のある大行燈を安全に曳き出すには、周知の手順が必要となる。例えば、令和五年（二〇二三）七津屋の場合、本頭一人、頭四人、計五人の若衆頭のリードにより行燈の運行がなされる。出発の儀式の後、行燈の前に位置した本頭の「出すぞー」の掛け声の後、若衆頭の「ノーノ」の合図となり、手に持つ拍子木が乱打され、そのタイミングで曳き手の若衆は行燈の台棒・横棒を持ち上げる。次の「ノーノ」の掛け声と拍子木の乱打を合図に行燈が引き

出される。若衆頭の「ヨイヤサ」の掛け声一同が「ヨイヤサ」と応える中、行燈が動き出す。その後、拍子木の拍に合わせて若衆頭が夜高節の歌詞冒頭三文字程度を歌い出すと、続いて一同も唱和し、歌いながらの練り廻しとなる。この時、夜高太鼓が笛の音を伴い打ち始められ、行燈を先導する。なお、行燈の停止の際は、拍をとっていた拍子木が乱打され、そのタイミングを指示する。

各町内を出発した大中小の行燈は、一八時三〇分頃には、銀行四つ角を中心とした四つの通りに勢揃いする。行燈の先頭に位置する裁許が黙して向き合い、厳粛な雰囲気醸し出す中に、それぞれの町の夜高太鼓の打音と笛の音が混ざり、四つ角を中心とした空間は音の渦と化する。

その後、行燈は、年ごとに決められた順番により動き出す。まず子どもたちにより中小の行燈が曳き出された後、大人の曳く大行燈が神明社へ向かい鳥居前で安全を祈願する。四つ角の空間に響いていた笛太鼓の音群も、それぞれの行燈を先導しながら分かれ行き、それに若衆の歌う夜高節の声の響きが混ざり合う。

夜高太鼓に先導された行燈は、神社鳥居前に到着すると台棒を降ろし、裁許ははじめ代表が参拝する。参拝後は、「ノーノ」の合図で台棒・横棒を持ち上げ、「ヨイヤサ」「ヨイヤサ」の掛け声とともに鳥居前で行燈を回転させ神社を後にする。行燈の進行に伴い、再び夜高節が歌われる。なお、参拝の細かな所作は、町によって多少異なる。また、横町行燈の参拝は、練り廻し後となる。

参拝をすませた行燈は、各町内を練り廻す。このため、福野の町一帯は、夜空に映える大小様々な行燈の光とともに移動する太鼓、拍子木、引き手のヨイヤサの掛け声、夜高節などが交錯し、祭礼の音空間を創りだしていく。やがて小中行燈が自町へ戻ると、町は大行燈の世界となる。

夜も更けてくると、大行燈は、上町通りに集結し、自町帰参の準備体制となる。上町通りには、銀行側に向かい、横町、辰巳町、浦町、最後尾に御蔵町の大行燈が並ぶ。上町、七津屋、新町がこれに対峙する。裁許の動きが慌ただしくなり、多くの見物人の声が飛び交う中で、車座になった若衆の夜高節がこどもし、夜高太鼓の響きが通りを埋め尽くす。この時間は、太鼓打ちの手練れも多く、即興的で聞き応えのある太鼓の見せ場にもなっている。

深夜、行燈すれ違いの時となる。残る他町を練り廻し自町へ向かう上町、七津屋、新町が、停止して待つ横町、辰巳町、浦町の行燈の脇をすり抜けて行く。上町、七津屋、新町各町の大行燈は、それぞれ夜高太鼓に先導される。笛太鼓の音が空間を移動する。道幅ぎりぎりの中をすれ違う行燈を導く若衆頭の拍子木音、曳き手若衆の夜高節の歌声、交錯する若衆の叫びが近づき、やがて遠くにかすかになっていく。これらの音は、それぞれの町に分かれ、しだいに消え、町の夜は静寂を取り戻す。

第二項 五月二日（例祭）

夕刻、各町の出陣式の後、行燈が曳き出され、練り廻しが始まる。コロナ禍明けの令和五年（二〇二三）の場合、大行燈が神社に向かった後、銀行前四つ角に設置された特設ステージにて、子供夜高太鼓競演会の優勝者による太鼓演奏、福野民謡会・泉の会による「福野小唄」「夜高節」の演舞、そして、夜高太鼓保存会による夜高太鼓の披露があった。なお福野民謡会・泉の会と夜高太鼓保存会の演舞は、この後、上町銀座会駐車場に設けられた南砺市商工会福野支部着地型観光検討委員会による「福野夜高茶屋」においてもなされた。

さて、大行燈を中心とする音世界の視点から見ると前日と最も異なるのは、大行燈すれ違い時の音群の有り様である。自町方向に向かい停

止する辰巳町、浦町、横町、御蔵町の大行燈の脇を新町、上町、七津屋の大行燈が道幅ぎりぎりの中ですれ違い帰ろうとする際に、いわゆる「けんか」といわれる行燈の壊し合いが始まる。この時先導する夜高太鼓の打音群に混じり、行燈の破壊音、若衆の叫び、前進しようとさせて打たれる拍子木の乱打や曳き手の「ヨイヤサ」の掛け声が渾然となり、これが闇に浮かぶ行燈の極彩色と一体化し、祭りの音のエネルギーも最高潮となる。「けんか」が終了すると行燈は、それぞれの町内に戻り、街の夜は静寂を迎える。

深夜、当番裁許の進行によりシャンシャンの儀が粛々と執り行われ、手締めで行燈練り廻しに関する一連の動きが終了する（写真2）。なお、手締めのシャンシャンであるが、その打ち方は、当番裁許となる町による。



1. シャンシャンの練習 (R6)



2. シャンシャンの儀 (R5)

上町・七津屋―シヤン―シヤン―シヤン―〇―シヤン―シヤン―シヤ

ン―〇―シヤシヤ―シヤン―シヤン―〇―×一本

浦町・辰巳町―シヤン―シヤン―シヤン―〇―シヤシヤン―シヤ

ン―〇―×三本

横町 ―シヤン―シヤン―シヤン―〇―シヤシヤン―シヤン

―〇―×三本

新町 ―シヤン―シヤン―シヤン―〇―シヤシヤンノ―シヤ

ン―〇―×三本

第三項 五月三日（神輿渡御）

前日までとは打って変わり、曳山や屋台を中心とした賑やかな音空間が演出される。

上町・七津屋、横町、浦町・辰巳町、新町の四基の曳山が、各町内での出発式を終え、車輪の軋み音とともに四つ角まで曳き出される。上町・七津屋の庵屋台も曳き出され、行燈壁画の前に据え置かれる。一〇時より曳山出発式となるが、この式の中で、庵屋台の前に位置した福野庵唄保存会による庵唄が披露される。令和四年（二〇二二）の曲目は端唄（玉川）、令和五年は端唄（空ほの）、令和六年は端唄（忍ぶ恋路）、令和七年は端唄（玉川）であった。三味線、太鼓、笛、唄による庵唄が四つ角空間に響く。出発式が終了すると、庵屋台を先頭に曳山は神社に向かう。この道中も囃子が奏される。神社鳥居前で曳山清祓式となるが、その際にも庵唄が奉納される（写真3）。

一二時三〇分より神幸祭があり、その後、神輿渡御となる。塩で清められた道を、大旗（神明宮祭禮）―辰巳町傘鉾―四神旗―獅子―先ぶれの太鼓（笛・太鼓）―楽（笛・太鼓）―神輿の列が終日街を巡る（写真4）。なお、令和六年（二〇二四）、四神旗は出ていない。「御小休所」



3. 神社鳥居前での庵唄奉納 (R4)



4. 神輿渡御 (R6)

とある家の前にくると、「ホォー」の掛け声を合図に太鼓の乱打と笛の高音を伴い獅子が舞い込む。次いで、神官による祓いの後、拍子木が入り、神輿の鈴が振られる。これらの笛や太鼓、拍子木や鈴の音、各町内を巡る曳山の軋み音が遠く近く、福野の街空間に響き渡る。

第二節 夜高太鼓

第一項 行燈練り廻しと夜高太鼓

夜高行燈と夜高太鼓の由来として語り継がれていることに、慶安五年（一六五二）の旧暦四月一日に伊勢神宮より分霊を受けた帰り道、俱利伽羅峠にさしかかったときには既に夜になってしまったことから、福野の人びとが太鼓を先頭に手に手に明かりを持ってお迎えに出たとある。太鼓は、もとより御神灯の点る行燈を先導し、先触れとして音によりその行く手を示したものとされる。従って、夜高太鼓は、行燈練り廻しの先導役としてなくてはならないものであり、行燈とともにあった。このような夜高太鼓の基本的な形態は現在も引き継がれており、行燈の行く手を導く夜高太鼓のリズムと音色、奏者のパフォーマンスは、祭の彩りと音世界に欠かせないものとなってきた（写真5）。



5. 行燈を先導する夜高太鼓（辰巳町）

夫、即興性やパフォーマンス、各町による表現の差異に加え、昭和五五年（一九八〇）頃からは子どもも参加し、さらに平成四年（一九九二）頃からは、女性の打ち手も登場するようになってきた。二人一組で奏する巧みなバチさばきは近年、一層華やかなものとなっている。

第二項 夜高太鼓の歴史と変容

現存する太鼓として古いものに、「嘉永六年戸出村」と胴内に書かれた上町の夜高太鼓がある。嘉永六年は一八五三年で、戸出（といで）村は現高岡市戸出町である。ケヤキの胴の手彫りで、昭和五〇年（一九七五）に石川県松任市（現白山市）の浅野太鼓で修復した際に判明した（写真6）。鼓面径四一センチメートル、高さ五二センチメートルの大きさである。『船鉾』には、「嘉永六年（一八五三）の作とすれば、昭和五〇年より起算して、百二二年の歳月を経ていることとなり、上町裁許相談の



6. 「嘉永六年戸出村」とある上町の太鼓



7. 夜高太鼓（『福野の夜高あんどん雑考』）



8. 過去の夜高太鼓



9. 御蔵町（左）. 浦町（右）

もと、我が福野町に行燈太鼓は数多くあれど、これだけの歴史ある太鼓はただ一つ上町行燈太鼓のみであろうと、新たに認識した。歴史的祭礼遺産として、胴の割れ目等を漆で塗り詰め杉原満曳山大工で補修をして、以後、管理に意を尽くすように後継者に申し伝える」とある（七四頁）。

現在の夜高太鼓は、一つの長胴鉾留め太鼓を太鼓台車の上に縦に置き、大バチと小バチの二人で鼓面を打つ形をとっている。昭和四五年（二九七〇）発行の長岡一忠著『福野の夜高あんどん雑考』には、「越中夜高太鼓打ち」（三九頁）とされた筈、太鼓の写真が掲載されているが、四角の木枠の上に太鼓を乗せ、片面を二人の奏者が桴を振り下ろす形で打っており、ここに現在の祖型を確認することができる（写真7）。なお、写真7では、桴が大きく写されているが、夜高太鼓では桴は用いられず、練習用と推測される。

このような奏法は、昭和から平成にかけて次第にできあがってきた



10. 七津屋（左）. 上町（右）



11. 横町（左）. 新町（右）



ものと思われる。それ以前は、「丸太を人足に前と後でかつがせ、それに太鼓を釣り下げ」（『古老にきく 第二集』五七頁）、一人で横からたたきながら歩いた（写真8）。

一番はじめに太鼓台車にしたのは御蔵町だと言う。古い太鼓を三日の本祭の「神様（カンサマ）の太鼓（先ぶれの太鼓）」として使っていたので、それがもともと太鼓を台にのせて移動していたことがきっかけらしい。戦前、御蔵町の有力者であった篠塚家が神様の御供として獅子頭を寄付、それに付属したのとして獅子舞の幕や太鼓も寄付したという。戦時中を経て、「神様の太鼓」は現在も御蔵町の太鼓を使用し、担当責任としての名残が残っている。

丸太に吊り下げて運んでいた太鼓を木枠の上に立てて奏するようになると、木枠の下部には車輪が付けられ、引きながら移動可能なものとなっていく。ここに町名を書き入れた提灯を吊し、屋根を設けるなどし、

現在では町内毎に様々な装飾も付され、祭りの華やかさの演出にも一役かっている（写真9～11）。

大バチや小バチの分担は共通していたものの、個人や町内それぞれ独自の叩き方をしていた夜高太鼓は、昭和四一年（一九六六）の「越中夜高太鼓保存会」設立や会の取組もあり、次第に形が整えられていく。

こうした夜高太鼓の変遷について、もと夜高太鼓保存会会員の辰巳町在住の丹羽良一（昭和二三年七津屋生まれ）は、次のように語る。

昔は、祭り当日周辺村部から応援に来てもらった。丸太にかついで二人で叩いていた。大バチ小バチの基本はおなじだったが、叩き方はまちまちだった。

昭和四一年（一九六六）に夜高保存会が発足した。それまでは個人的な叩き方で、覚えているかぎりは一～三題目くらいの繰り返しだった。

七津屋にいたとき、四題目までであった。清島（せいしま）さんと城宝（じょうほう）さんがつくった。それを高校生ながら教えてもらって祭りで叩いた。

昭和四八年（一九七三）東京銀座祭りに参加した時に、トラックでパレードしようということで、トラックの上に太鼓を二台置き、四人で叩いた。その時揃え打ちをしようということになり、五題目までつくった。そこに新しい形ができた。

笛吹きは最初あまりいなかった。縦笛をしていた町内もあった。笛がないところもあったかもしれない。横笛の方が難しいけど祭りの笛としてはいいということで、横笛を使うようになった。私が七津屋ではじめてときに佐々木貢さんが、横笛を吹いていた。その頃からほぼ今の笛（の節）だった。

夜高太鼓は、大バチと小バチの二人によって奏されるのが基本である。複数のリズムフレーズの組み合わせにより構成されているが、個々のリズムフレーズのまとまりを一題、二題といった呼称で呼び、全体で六題構成が基本となっている（詳細後述）。保存会発足当時は、現在の一題から三題くらいのリズムをそれぞれ個性的な叩き方で奏していたものが、次第に変化を付けたものを新たに加え、現在は六題構成となってきた。昭和四八年（一九七三）「第六回大銀座祭 光のパレード」参加時、夜高行燈出場者一八〇人、夜高太鼓二〇人、夜高おどり三〇人、計二二〇人が銀座のメインストリートのパレードしているが、この際、五題目までつくられたと言われる。なお、町内や叩き手の個性により、多少の相違が見られる。また、令和五年（二〇二三）で四四回目となる夜高太鼓競演会（後述）では、六題の構成を大バチ小バチのペアが交互に奏するのが基本であるが、これと祭りで奏される太鼓は必ずしも同じで



12. 安居大神楽太鼓の縦笛



13. 安居大神楽太鼓の演奏



14. 夜高太鼓（長胴鉾留め太鼓）



15. 夜高太鼓使用の桴（御蔵町）

はない。祭りの太鼓は時に小バチの奏者が交替せずに担当したり、大バチの奏者が即興も交えて、自分流を叩いたりする。

さて、現在の夜高太鼓には、どの町内でも横笛（篠笛）の節が加わる。しかし元来は太鼓中心であり、以前は太鼓のみの町内もあった。例えば、御蔵町では、平成二年（一九九〇）辰巳町から笛を習い取り入れている。また、縦笛を奏していたところもあった。『越中夜高太鼓保存会発足三〇周年記念誌 夜高祭』には、「各町内の古老の方々が健在であった当時は、立て笛（ママ）の心にしみる様は音色と豪快な太鼓の響きは祭りの雰囲気を感じ上げ、多くの見物の皆さんの興奮をかきたてた（敬神会会長 北川正男「お祝いのことば」）とある。これが横笛（篠笛）に統一されていった。なお、縦笛については、同型のもの（高岡市福岡町新月制作）を近隣の安居地区の安居大神楽太鼓が現在でも使用している（写真12、13）。

第三項 楽器（太鼓、笛）と編成

現在の夜高太鼓の基本は、一台の長胴鉾留め太鼓を台座の上に鼓面を上にして立て、大バチと小バチを担当する二人の奏者により演奏される（写真14）。これに篠笛が複数加わる。太鼓の大きさは様々であるが、令和五年（二〇二三）夜高太鼓競演会では、高学年、大人用が高さ六四センチメートル、鼓面の直径四九・五センチメートル、小学校低学年用高さ五一センチメートル、鼓面の直径四三センチメートルのものを使用している（写真14）。

演奏に用いる桴は、細めで長めのものが多い。夜高太鼓競演会で優勝者に贈呈される桴は、全長四二・五センチメートル、直径二・二センチメートルのものである（写真15）。

篠笛は、六孔八本調子のもを用いる。写真16上は夜高太鼓保存会使用している新月制作のものであるが、長さ四五〇ミリメートルほどで、管頭から吹口の中心までが一二〇ミリメートルで一般的な篠笛より長めである。それぞれの町内では、城端のワダ楽器、高岡市の大國屋等からも購入している。写真16下は、それぞれの町内で用いられているものの一部である。

第四項 夜高太鼓の音楽構造

〈太鼓〉

夜高太鼓は、一定のリズムパターンを繰り返す小バチに強弱やアクセントの変化する大バチのリズムが加わり、そこに笛の音が重なる。この際、連続する小バチの上にダイナミックに重なり、身体全体を使って躍動的に打たれる大バチのパフォーマンスは、きわめて重要である。

行燈練り廻しの際、太鼓は常に行燈の先導をしながら街を練り歩く



16. 新月製作の笛（上）各町の笛（下）

小バチ（下記リズムパターンの繰り返し）

ドン ドン ドン ドコ

楽譜 1. 福野夜高太鼓 小バチ

大バチ

楽譜 2. 夜高太鼓 大バチの全体（御蔵町の例）

ことから、奏者は何度も入れ替わり演奏が継続される。小バチは口唱歌で表すとドンドンドンドコ（またはトントントント）となる。これを右（ドン）右（ドン）右（ドン）左左（ドコ）と繰り返し叩く奏法が基本となる（楽譜1）。

大バチは、一題目から六題目までの六つのパターンに大別される。これらは、それぞれ冒頭部に共通のリズム（楽譜a）があり、その後、各題独自のリズム（楽譜①〜⑥）が加わる。これらは町毎に多少の相違が見られる。また、時間やパフォーマンス上の都合等から部分的に割愛されることもある。楽譜2は、御蔵町石見昭友からの聴き取りを基に採譜した大バチの全体像である。

各題目の最後には共通したリズム、「ドコドンドンドコ（ドコドンドンドドとも）」が打たれ（六題目の場合は、五〜六小節目）、これが題目の区切りとなっている。なお、六題目七小節目以降は終止部分で、ドン

ドンドンドンの一六拍の連続が次第に緊迫感を増して打たれ、「○ドッ
ドーン」ドコドンドン○ドコドンドン○ドンドン○ドンドン○で終わりと
なる。

これら一題目から六題目の演奏順であるが、「夜高太鼓競演会」では、
時間の都合上一部を割愛することがあるものの、順番に、二人の奏者が
大バチと小バチを交替しながら叩くのが基本となっている。また五題目
以降は、小バチがなくなり、二人一緒に大バチを奏する。五題目、六題
目などは、町によっては多少異なるリズムを打つ。祭りの本番におい
ては、これらの順番や奏者の交替は、厳密なものではなく、即興性を
伴った自由な打ち方もなされ、町内あるいは個人の工夫による独特なパ
フォーマンスとなって表現される。

〈笛〉

笛の節の基本的な構成音は、低い音からB(シ)・D(レ)・E(ミ)・

笛の構成音

吹口 指孔 管尻

○	● ● ● ● ● ●	○	①B (シ)
○	● ● ● ● ● ●	○	②D (レ)
○	● ● ● ● ○ ○		③E (ミ)
○	● ● ○ ● ● ●		④G (ソ)
○	● ○ ○ ● ● ●		⑤A (ラ)
○	○ ● ● ● ● ●		⑥B (シ)

指孔の押さえ方と音高

上：楽譜3. 笛の構成音 / 下：図1. 指孔の押さえ方と音高

笛

口唱歌

ビー ビー ビーハヤハヤ ロ ビーハヤハヤ ロ ロ ビーハヤハヤ ロ

笛

口唱歌

オッ ビー ビー ハヤー ビーハヤハヤ ロ ビー ハヤ ロ ロ ビーハヤハヤ ロ

笛

口唱歌

ビー ハヤ ロ ロ ビーハヤハヤ ロ オッ ビー ビー ハヤー ビーハヤハヤ ロ

笛

口唱歌

ビーハヤハヤ ビーハヤハヤ ビーハヤハヤ ロ ビー

* 笛の実音は1オクターブ上の甲音を用いる。
口唱歌は島田辰男による。

楽譜4. 夜高太鼓の笛

G(ソ)・A(ラ)・B(シ)となつている(楽譜3)。一般的な笛の使用音域は、低いオクターブの音域(呂)と高いオクターブの音域(甲)があるが、夜高太鼓の笛の演奏は、基本的に甲音を用いる。管尻に近い指孔から一、二、三、四、五、六と番号を振ると、一、二、三、はそれぞれ右手薬指、中指、人差し指で押さえ、四、五、六はそれぞれ左手薬指、中指、人差し指で押さえる。それぞれの押さえ方と音の高さの関係は図1のようになる。演奏する際、管尻から三つめの孔は常にふさがれて演奏される。なお、低いB(シ)、譜の①の音は楽譜の音高より低めである。

笛の節は、楽譜4に示した通りで、これに細かな装飾が入る。また、次のような口唱歌で表現される。これらは、①から⑦に示したように、七つの小さな節で構成されており、太鼓の演奏中①～⑦が繰り返され、最後に⑧の高音を吹き、終了となる。

- ① ピーピーピーヒヤヒヤロ
- ② ピーヒヤヒヤロロロロロロロロロロロロロロロロ
- ③ オッピーピーヒヤヒヤヒヤヒヤロ
- ④ ピーヒヤロロロロロロロロロロロロロロロロ
- ⑤ ピーヒヤロロロロロロロロロロロロロロロロ
- ⑥ オッピーピーヒヤヒヤヒヤヒヤロ
- ⑦ ピーヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤロ
- ⑧ ピー

(口唱歌は島田辰男による)

競演会等において、太鼓と合わせる時は、冒頭部の四小節、①が前奏となる。すなわち「ピーピーピーヒヤラロ(ハッ)ードンドンドンドコ」 という形で太鼓の演奏が開始される。笛は、楽譜4の節①～⑦を

繰り返すが、太鼓の最後の「ドン」に甲音の「ピー」⑧を合わせて終了する。

第五項 継承

(一) 越中夜高太鼓保存会

「越中夜高太鼓保存会」は、新町、上町、七津屋、横町、浦町、辰巳町、御蔵町の七つの町の夜高太鼓保存会が合体し、昭和四一年(一九六六)一月一五日に設立された。『越中夜高太鼓三〇年史 夜高祭』には、発足の背景が次のように記載されている(六三頁)。

開町以来三〇〇年余の伝統ある夜高あんどんの「夜高太鼓」は、最近若い後継者がいなくなったため、町商工会の肝入りで町の古老などから正統な夜高太鼓について調べるとともに若手の育成に力を入れることになり保存会を結成した。

会長 苗田外幾男 副会長 河合正之 会員数三四人

以後、保存会の会員数の推移は、表1の通りである。

この間、会長は、初代苗田外幾男(昭和四一年度～四三年度)、第二代黒田庄作(昭和四四年度～五一年度)、第三代黒田努(昭和五二年度～六〇年度)、第四代杉木謙三(昭和六一年度～平成一四年度)等が担

年度	数	年度	数	年度	数	年度	数
昭和41年	34	平成6年	21	平成18年	14	平成27年	16
58年	25	7年	20	19年	13	28年	16
61年	24	11年	19	20年	14	30年	17
62年	22	15年	18	21年	15	31年	16
平成元年	24	16年	14	24年	16	令和4年	20
4年	25	17年	15	25年	17	令和6年	19

表1. 越中夜高太鼓保存会会員数の推移

い、平成一五年度より、第五代中村秀雄会長となって現在に至る。なお、令和四年一〇月一日現在の会員は、次の二〇名である。

中村秀雄（会長）、晩田啓人（副会長）、新山俊英、今村利夫、島田辰男、清島健、村澤修一、梶井利一、森田勝彦、竹部徹、石見昭友、橋爪隼人、河合崇行、苗田佑介、中田涼、南智之、澤田尚也、嶋田良太、齊藤正憲、佐竹謙一

昭和四三年（一九六八）一月の総会において、保存会は、第一、第三日曜の練習を決定、それ以後定期的な練習を継続するとともに、福野町商工祭、福野町芸能祭、結婚式、東京銀座まつり、富山県民謡民舞大会、富山県太鼓協会共演会等々への出演を重ね、町内はもとより県内外で幅広く積極的な活動を続けている。また、昭和五三年（一九七八）五月からは、「夜高太鼓競演会」を主催し、子どもの打ち手の育成に力を注いできた。競演会は、令和五年（二〇二三）で四四回目を終えた。保存会では、祭りの夜高太鼓を基にステージ用に構成、演出を工夫した夜高太鼓も創作し、各種催しや観光行事等を通して、夜高太鼓はもちろん、夜高祭や福野の広報活動にも大きな役割を果たしてきた。

越中夜高太鼓保存会の活動は、平成八年（一九九六）一月に発刊された三〇周年記念誌、次いで平成二八年（二〇一六）発刊の五〇周年記念誌に詳しい。これらのうち、結成年から昭和五二年（一九七七）までを資料1に示した。

これら資料等から保存会の役割や活動の特徴として次のことがあげられる。

第一に、積極的な普及交流活動の推進である。福野町内においては、

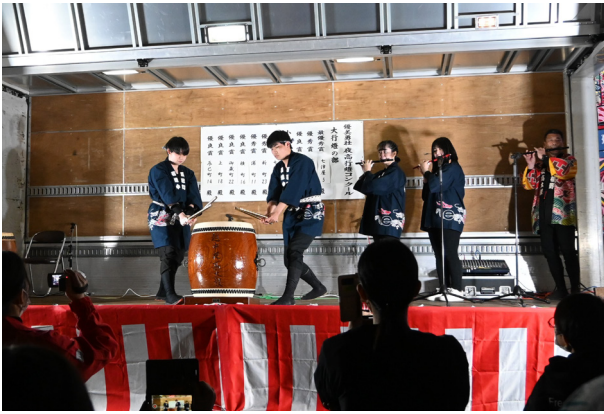
越中夜高太鼓保存会 結成50年のあゆみ ~その1

年月日	行事内容	場所
昭和41年 11月15日	開町いらい310年余りの伝統ある夜高行燈の「夜高太鼓」は、若い後継者がいなくなったため、福野町商工会の肝いりで町の古老などから正統な夜高太鼓について調べると共に若手の養成に力を入れることになり、保存会を結成した。 会長 苗田 外幾男、副会長 河合 正之 <会員 34名>	
12月11日	今後の保存会の活動についての協議会を開催する。	
昭和42年 1月15日	福野町の成人式に出演。	福野町公会堂
7月20日	役員会を開催し、太鼓新調を決定する。	
22日	黒田 庄作氏から篤志をもって、太鼓の寄贈を受ける。	
9月 5日	浅野大蔵店から新調の太鼓が届く。	
16日	福野神社に於いて、太鼓修技式を厳修。	福野町「福野神社」
10月 7日	太鼓の練習を始める。	
29日	福野商工会の体育祭に出演。	
昭和43年 1月28日	昭和43年度総会を開催する。2月から第1、第3日曜日に練習する事を決定。	
2月 3日	嘉好織物工場祝賀会に出演。	
27日	福野商工会の商工まつりに出演。	
11月10日	ボイスカウト10周年記念事業に出演。 井波町招魂祭に出演。	
24日	福野町名士「かくし芸大会」に協賛出演。	
昭和44年 1月26日	福野町消防団「出初式」に出演。	
2月12日	総会を開催し、会長に黒田 庄作氏が就任する。	
4月 5日	福野町新就職者激励会に出演。	福野町公会堂
13日	夜高祭のPRを花見で賑わう高岡古城公園で行う。 (20名参加)	高岡市「古城公園」
22日	富山県保健衛生大会に出演。	砺波市福祉会館
8月 1日	福野商店会の夜店に出演。	福野町商店街
9月14日	高岡市長生家へ慰問出演。	高岡市「長生家」
10月 2日	富山中央通り商店街のアトラクションに出演。	富山市「中央通り商店街」
12日	福野商工まつりに出演。	
23日	恒例の助け合い芸能祭に出演。	福野町公会堂
昭和45年 4月19日	夜高祭のPRを花見で賑わう高岡古城公園で行い、花見を行う。	高岡市「古城公園」
7月31日	福野商店会の夜店に出演。	福野町商店街
11月1日	福野町観光祭に出演。	福野町公会堂
29日	恒例の助け合い芸能祭に出演。	〃
昭和46年 3月20日	酒米生産者大会に出演。	〃
28日	福野町名士「かくし芸大会」の第2部に出演。	〃
昭和47年 4月11日	夜高祭のPRを花見で賑わう高岡古城公園で行い、花見を行う。	高岡市「古城公園」
5月 1日	香川県多度津町との姉妹都市調印式のアトラクションに出演。	福野町公会堂
7月29日	福野商店会の夜店に出演。	福野町商店街
9月30日～10月 3日	福野町主催の香川県多度津町への親善訪問に夜高太鼓保存会から11名参加。	香川県多度津町

越中夜高太鼓保存会 結成50年のあゆみ ~その2

年月日	行事内容	場所
昭和47年 10月22日	富山県民謡民舞連盟 福野大会に出演。	福野町公会堂
11月 5日	福野商工会の商工まつり「町流し」に出演。	福野町街地、福野町公会堂
昭和48年 1月15日	井波町商工会新年会に出演。	
21日	富山県太鼓協会の新年会に出席。(10名参加)	小矢部市「藤雲閣」
5月27日	吉井織物棟の創業100周年のアトラクションに出演。	
7月14日～15日	七尾市「山まつり」に招待出演。 11名参加	石川県七尾市
28日	井波太子伝の協賛行事に招待出演。	井波町内
8月25日	北信越産業人バレーホール大会の開会式に出演。	
10月12日	東京銀座まつりに四町の大行燈、踊りと共に参加し銀座8丁目～1丁目までの沿道を埋めた70万人の東京っ子の目を奪った。 夜高太鼓保存会からの参加は、黒田 庄作会長以下18名であった。	東京都「銀座通り」
11月23日	福野町商工感謝祭に出演。	
昭和49年 4月19日	夜高祭のPRを行い、花見を行う。	庄川町庄川堤防
7月26日～28日	福野商店会の夜店に出演。	福野町内
11月 3日	富山県民謡民舞大会に出演。	水見市民会館
4日	福野町感謝祭に出演。	福野町公会堂
昭和50年 4月 5日	北日本民謡民舞大会に出演。	福野町民体育館
7月25日～26日	福野商店会の夜店に出演。	各商店街を練り廻る
9月21日	富山県民謡民舞大会に出演。	魚津市民会館
10月5日	砺波ライオンズクラブ10周年記念大会に出演。	福野町「旅川会館」
19日	福野町運動場落成記念体育祭のPRに参加。	福野町街地一円
11月 3日	井波町招魂祭に招待出演。	
昭和51年 6月15日	両砺波社会福祉大会に出演。	福野町公会堂
7月 1日	富山県更生保護大会に出演。	〃
23日～25日	福野商店会の夜店に出演。	福野町街地
8月22日	福野小唄発表会に出演。	福野町公会堂
31日	スズキ自動車工業株式会社夕涼み大会に出演。	小矢部市
10月16日	富山県社会教育大会に出演。	富山市
31日	富山県民謡民舞大会に出演。	立山町民会館
昭和52年 1月23日	黒田 庄作会長の葬儀に会員多数参列。	福野町「高参寺」
3月 3日	新会長に黒田 勇氏を選任。	
14日	総会を開催し、黒田新会長より挨拶を頂く。新調のバツビの図案が黒原 研一氏と執行部に一任される。	
26日	松尾 和子ショーに賛助出演。	福野町公会堂
29日	福野産業文化会館などの合同竣工式に出演。	福野町体育館
6月19日	小矢部市商工まつりに招待出演。	小矢部市
26日	民謡まつりに賛助出演。	福野町公会堂
10月22日	富山県民謡民舞大会に出演。	新湊市奈古中学校体育館
11月 6日	第2回 福野町芸能祭に出演。	福野町公会堂
12月 9日	戸出ショッピングセンターの竣工アトラクションに出演。	戸出町
18日	山田 久就国務大臣歓迎会に出演。	福野町民体育館

資料1. 越中夜高太鼓保存会のあゆみ (50周年記念誌 pp. 1-2)



17. 夜高祭での特設ステージでの演奏



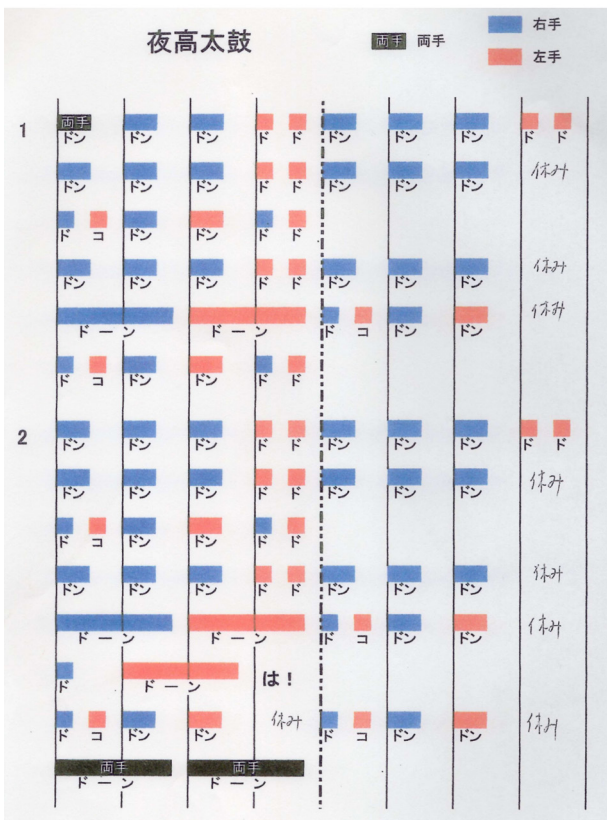
資料 2. 富山新聞 2022. 12. 2 記事

夜高祭の際の特設ステージでの演奏（写真17）をはじめ、商工会の商工まつり、福野町観光祭、福野町芸能祭、福野神明社三五〇周年事業、敬老会、結婚式といった大小様々な行事への参加が見られる、また、町外では、香川県多度津町への親善訪問、東京銀座まつりでの大行進（昭和四八年）、置県一〇〇周年記念「富山大曳山まつり」への参加（昭和五八年）、テレビ出演、夜高祭観光出向宣伝、国民文化祭（平成八年、二三年、二五年）、とやま国体（平成二二年）、夜高祭御分霊お迎え行事、夜高祭三五〇周年記念「伊勢神宮崇敬参拝」（平成一三年）、上海国際博覧会「富山県の日」での披露（平成二二年）、フランス・リヨン市の「光の祭典」への招待参加（平成二三年）、福島県南相馬市に震災支援遠征（平成二五年）、伊勢神宮式年遷宮記念事業（平成二五年）など、県内外はじめ国際的な活動がみられ、夜高祭の広報や夜高太鼓の交流、普及活動に貢献している。

第二に、夜高太鼓の民俗芸能として位置づけを確かなものとしたことがあげられる。

保存会では、富山県民謡民舞大会、富山県太鼓協会共演会、富山の太鼓などへの継続的な出演、加えて、環日本太鼓フェスティバル（平成一七年）、富山県曳山祭サミット（平成二二年）、南砺里山博二〇一〇オーピングイベント「南砺の太鼓と獅子舞の競演」（平成二三年）での披露、さらには、砺波市五鹿屋地区への夜高太鼓教授（平成一四年）など他地区への指導等を通して、民俗芸能、民俗音楽としての「福野の夜高太鼓」の位置づけを確かなものとしてきた。

第三に、後継者育成活動の推進がある。保存会では、福野小学校での指導や保育園での稽古活動など、子どもの育成活動を積極的に行ってきた。資料2は、福野ひまわり保育園における夜高太鼓稽古についての富山新聞二〇二二年一月二日の記事である。これによると「同園の前



資料 3. 夜高太鼓子供譜（保存会作成）

身である福野第一保育所の時代から二七年間にわたり、越中夜高太鼓保存会が指導を続けて」おり、この日は、年一〇回の稽古の締めくくりの演奏披露とのこと。資料3は、保存会が作成した子ども用の指導譜で、ここでは太鼓の基本奏法について口唱歌を伴い、見やすく、またわかりやすく示されており、子どもたちへの継承についての熱意が見て取れる。

毎年主催する「夜高太鼓競演会」は、後継者育成活動の中心的な催しとなっている。第一回目は、昭和五三年（一九七八）五月一日に行われた。令和五年（二〇二三）四月二十九日「ア・ミューホール」での開催が第四四回となる。この年の競演会では、「小学校低学年の部」、「小学校高学年の部」、「中学生の部」、「そろい打ちの部」に分かれて演技が行われ、これに「笛の部」が加わり、これらに対する審査、表彰がなされた。

令和五年の場合「小学校低学年の部」七町一八組三六名（重複含）、「小学校高学年の部」七町一二組二四名（同）、「中学生の部」六町一一組二二名（同）、「そろい打ちの部」四町四組一六名（同）、「笛の部」六町一六名のエントリーがあった。なお「夜高太鼓競演会」の詳細については別項を設ける。

この競演会は、何よりも若手の育成に貢献をしている。夜高祭で奏される夜高太鼓の奏者は、多く子どもたちと女性が担い手となっており、こうした競技会で力を付け楽しく学んだ若者が意欲的に参加している結果である。また、競演会で演技するために、事前に町毎の練習が行われる。町単位の継続的な指導の結果が競演会に集約される形となっており、夜高太鼓の継承の基盤となっている。保存会は、このような活動を評価され、平成一九年（二〇〇七）、富山県教育委員会から「教育功労者表彰」を受賞している。なお、近年の課題として少子化による担い手の減少があげられる。

最後に、夜高太鼓の技能的な向上と再創造を伴った太鼓の確立について、保存会の果たしている役割について指摘しておきたい。

資料1にみられるように、昭和四三年（一九六八）一月の総会で「二月から第一、第三日曜日に練習する事を決定」した保存会は、会員による夜高太鼓の定期的な練習を継続し、太鼓の奏法や表現について、それらの確認や技能の向上を図っている。そして、ここで腕を磨いた会員が、それぞれの町の指導者として核になり活動してきた。保存会設立の趣旨にあった「正統な夜高太鼓」を追求するとともに、それぞれの町の特徴的な打ち方や個人の妙技、即興的な演奏も認め、これら全体が夜高太鼓の味わいとなっている。また、昭和四八年（一九七三）の銀座祭への出演などをきっかけに、ステージ用の新たな組合せや打ち方など、従来の太鼓を基本としながら新たな創作も行ってきた。保存会は、「夜高太鼓」の他に「夜高囃子」「祝太鼓」「豊年万作太鼓」「教え歌」「夫婦（めおと）太鼓」などのレパートリーを持つ。

（二）町内での継承

子どもへの指導は、それぞれの町内において、祭り直前に開催される「夜高太鼓競演会」での発表を目指し、祭りの二・三週間前から開始される。

令和五年（二〇二三）、七津屋の場合、七津屋地区会館前（雨天の場合は神能工務店）にて四年生以下の低学年は一九時から二〇時まで、五年生以上中学生は二〇時から二一時まで七津屋夜高保存会や親の指導により練習が行われた。令和六年（二〇二四）、辰巳町では、福野中学校ピロティにて、四月一三日から日曜を除く毎日一九時三〇分より保存会や世話方の指導により小学生九人中学生三人が練習を行った。また、御蔵町では、福野中学校前庭（雨天時はピロティ）にて、四月九日から

三〇日までの間、一九時三〇分から二二時まで練習をしている。子どもは、小学生七人中学生二人高校生一人で、指導は石見昭友を中心とした河合崇行、苗田佑介、中田涼といった夜高太鼓保存会のメンバーである。このように競技会へ向けた練習が、それぞれの町内で継続されている。しかし近年の少子化に伴い、子どもがいなくて練習をしていない町もある。

（三）「夜高太鼓競演会」

ここでは、令和四年、五年の夜高太鼓競演会の様子を中心に、具体的な様子を記しておく。

資料4に令和四年の実施要項をもとにその概要を書き出した。

競技会は、四月二十九日（祝）一三時よりア・ミューホールにて開催された。主催は、越中夜高太鼓保存会、共催は、福野夜高祭連絡協議会、福野夜高保存会、ショッピング・ア・ミュー、後援が、南砺市、南砺市

- 1.期日：令和4年4月29日（祝）
- 2.時間 受付午後0時30分~1時、午後1時開始
- 3.場所：ア・ミューホール
- 4.主催：越中夜高太鼓保存会
- 5.共催：福野夜高祭連絡協議会、福野夜高保存会、
ショッピング・ア・ミュー
- 6.後援：南砺市、南砺市観光協会、富山新聞社、北日本新聞社、
となみ衛星通信テレビ
- 7.参加申込：各町内単位
- 8.参加料：太鼓の出場者1名につき100円（各町内単位で支払い）
- 9.審査

- ①小学校低学年の部 1年生~4年生（何組でも出場可）
- ②小学校高学年の部 5年生~6年生（何組でも出場可）
- ③中学生の部（何組でも出場可）
- ④そろい打ちの部（各町内1組（4人））
- ⑤笛の部

※原則として、同部門ごとでペアを組むが、部門の違うペアは、上級生の学年の部門とする。

※1人1回の出場を原則とするが、どうしてもペアを組めない時は、同じ人の出場は2回までとする。（審査対象は点数の高い1組のみ）

※3人で3組の出場は認めない。また、4人で3組の出場も認めない。

10.競技時間：ペアの部は、太鼓の打ち始めから1分30秒以内。そろい打ちの部は、3分以内とする。超過した場合は、減点の対象とする。

11.競技方法：演技方法は自由とし、笛を付ける。笛のいないチームは、大人が協力する。パチは各自用意すること。はちまき、帯を着用すること。（服装も審査対象となります。）審査員へのお礼は、必要ありません。最初と終わりに観客へお礼してください。

資料4. 令和4年夜高太鼓競演会実施要項

観光協会、富山新聞社、北日本新聞社、となみ衛星通信テレビである。参加申込は町内単位で行われ、一人百円の参加料が必要となる。審査は、「小学校低学年の部」「小学校高学年の部」「中学生の部」「そろい打ちの部」「笛の部」にわけて行われる。原則として、同部門ごとでペアを組むが、部門の違うペアは、上級生の学年の部門とする。また、一人一回の出場を原則とするが、どうしてもペアを組めない時は、同じ人の出場は二回までとする。その場合、審査対象は点数の高い一組のみとなる。

競技時間は、ペアの部においては、太鼓の打ち始めから一分三〇秒以内、そろい打ちの部においては、三分以内である。超過した場合は、減点の対象とする。服装は、揃いの町内法被、はちまき、町によっては地下足袋を履く。

令和四年（二〇二二）の出場町は、七津屋、浦町、四区町、新町、松原本町、御蔵町、横町で、エントリーは、小学生低学年の部二六人一四チーム、小学生高学年の部二三人一二チーム（うち一チーム二人当日欠席）、中学生の部二六人一五チーム、そろい打ちの部五町二〇人（小六〔中三〕、笛の部七町三五人であった。詳細は、小学生低学年の部、七津屋一〇人五チーム、浦町四人二チーム、四区町三人二チーム、新町二人一チーム、松原本町二人一チーム、御蔵町三人二チーム、横町二人一チーム、小学生高学年の部、辰巳町二人一チーム、七津屋六人三チーム、浦町二人一チーム、四区町二人一チーム、新町二人一チーム、御蔵町四人二チーム、横町六人三チーム、中学生の部、辰巳町二人一チーム、七津屋五人三チーム、浦町七人四チーム、四区町二人一チーム、松原本町五人三チーム、御蔵町二人一チーム、横町三人二チーム、そろい打ちの部、七津屋四人一チーム、浦町四人一チーム、松原本町四人一チーム、御蔵町四人一チーム、横町四人一チーム、笛の部、辰巳町三人、七津屋七人、

浦町七人、四区町三人、新町（太鼓保存会）、松原本町七人、御蔵町四人、横町四人となっている。

令和五年（二〇二三）のエントリは、小学生低学年の部が、松原本町二人一チーム、七津屋一六人八チーム、御蔵町二人一チーム、四区町二人一チーム、新町三人二チーム、横町五人三チーム、小学生高学年の部が、七津屋五人六チーム、御蔵町四人二チーム、浦町三人二チーム、四区町二人一チーム、新町三人二チーム、横町二人一チーム、辰巳町二人一チーム、中学生の部が、松原本町二人一チーム、七津屋四人二チーム、御蔵町二人一チーム、浦町五人三チーム、横町四人二チーム、辰巳町四人二チームであった。また、そろい打ちの部は、七津屋四人一チーム、御蔵町四人一チーム、浦町四人一チーム、横町四人一チーム、笛の部は、松原本町二人、御蔵町一人、浦町三人、四区町一人、横町六人、辰巳町三人の申し込みとなっていた。

令和六年（二〇二四）のエントリは、小学校低学年の部が、御蔵町二人一チーム、松原本町二人一チーム、辰巳町五人三チーム、七津屋一五人八チーム、横町一人六チーム、小学校高学年の部が、御蔵町三人二チーム、辰巳町二人一チーム、七津屋八人四チーム、浦町四人二チーム、中学生の部が、松原本町二人一チーム、辰巳町二人一チーム、七津屋六人三チーム、横町三人二チーム、浦町五人三チームであつ

- 1.太鼓の打ち込み(音) 50点
 - 2.リズム(小バチ) 30点
 - 3.ペアの不揃い 20点
- <チェック項目>①立つ位置②小バチのリズム③打ち込む姿勢④音の強弱⑤大バチの打ち込み⑥相方と合わせる⑦笛と合う競技時間の確認
- <減点>
- ①バチとバチが当たる(1回につき) -2点
 - ②太鼓の縁をたたく(1回につき) -2点
 - ③音をはずす -5点
 - ④競技時間を過ぎる -5点
 - ⑤小バチのリズムが狂う -5点
 - ⑥音が小さい -5点
 - ⑦服装が乱れていると(ハチマキを着用していない) -5点

資料 5. 夜高太鼓競演会審査基準

時間	項目	内容
10:00	会場準備	ア・ミューホールにて
0:30	受付	町内ごとに受付、名前の確認
13:00	会長挨拶	越中夜高太鼓保存会 会長
13:05	審査員紹介	越中夜高太鼓保存会 会長 他保存会より3名 計4名
	審査方法説明	司会者より審査方法の説明
13:10	演技開始	小学校低学年の部 小学校高学年の部 中学校の部 そろい打ちの部 保存会模範演奏
15:30	総評	越中夜高太鼓保存会 会長
16:00	表彰式	【ペアの部】 市長賞・富山新聞社賞・北日本新聞社賞 (各部門1組計3組) 夜高祭連絡協議会長賞 (各部門1組計3組) 夜高保存会長賞(各部門1組計3組) ア・ミュー賞(各部門1組計3組) 【そろい打ちの部】 夜高太鼓保存会長賞：優勝 次賞 【笛の部】 優秀賞
16:30	閉会挨拶	

表 2. 令和 5 年 第 44 回夜高太鼓競演会次第

た。そろい打ちの部は、七津屋四人一チーム、横町四人一チーム、浦町四人一チーム、笛の部は、松原本町二人、横町数名、浦町六人のエントリがあった。

審査員は、夜高太鼓保存会から会長含む四人が当たる。審査基準は、図3のように定められており、一〇〇点満点とし、太鼓の打ち込みが五〇点、リズムが三〇点、ペアの不揃い方が二〇点といった配点である。なお、立ち位置や姿勢、音の強弱、小バチ、大バチの打ち込み、相手や笛との呼吸、競技時間等細かなチェック項目が定められるとともに減点項目も設けられており、ここに求められている夜高太鼓の打ち方の規範を見ることがができる。

表 2 は、令和五年（二〇二三）第四四回の大会次第である。一三時に開始、会長挨拶、審査委員紹介、審査方法の説明の後、小学校低学年の部から演技が開始される。高学年の部、中学校の部、そろい打ちの部



20. 夜高太鼓競演会 そろい打ちの部



18. 夜高太鼓競演会 全体



21. 夜高太鼓競演会 表彰式



19. 夜高太鼓競演会 ペアの部

で審査対象となる演技が終了する。なお、そろい打ちの部は、二つの太鼓を二人ずつのペアで打つもので、祭りの太鼓とは異なり、基本となる打ち方に創意工夫を加え、笛の節との関係や太鼓のリズムの組合せを変化させたり、個々の打ち手の技能や合わせ方の妙味、掛け声のかけ方を工夫したりして、個性的で見応えのあるステージ用の太鼓となっている。

この後、保存会による模範演奏が披露される。

審査発表、表彰式は、保存会会長による総評の後に行われる。賞は、ペアの部に「南砺市長賞・富山新聞社賞・北日本新聞社賞（各部門一組計三組）」、「夜高祭連絡協議会長賞（各部門一組計三組）」、「夜高保存会長賞（各部門一組計三組）」、「ア・ミュー賞（各部門一組計三組）」、「そろい打ちの部」に「夜高太鼓保存会長賞（優勝次賞）」、「笛の部」に「優秀賞」が授与される。それぞれ受賞後に部門毎で記念撮影があり、閉会の挨拶で終了となる。なお、市長賞受賞者には、楯とバチが、そろい打ちの部優勝チームには、トロフィーが贈呈される。

また、ペアの部の南砺市長賞、そろい打ちの部の優勝チームは、祭の際に上町四つ角のステージ出演、演技披露の依頼がある。